

キャストィ 21 イベントゾーン

文化・コンベンションエリア基本計画（素案） 概要版

1 イベントゾーン整備の基本的考え方 . . . (本編 P.2)

- (1) 我が国の社会経済動向、まちづくりの潮流
 - ① 人口減少、世界でも類を見ない少子高齢化の進展
 - ② 新たな成長戦略 我が国の強みを活かした成長分野への重点的投資
 - ③ 我が国の成長を支える都市の役割の増大
 - ④ 「交流」を核としたまちづくり
 - ⑤ 文化・芸術の振興による生活の質(QOL)の向上
- (2) 姫路の都市づくりを進める方策
 - ① コンパクトシティの推進
 - ② グローバルな視点に立った都市づくりの推進
- (3) イベントゾーンの概要
 - ① 特性(JR 姫路駅から700m、面積約6.6ha、近隣商業地域 等)
 - ② 各種計画における位置づけ
 - ア) 姫路市総合計画：幅広い世代の市民や国内外の人々が集う多様な交流活動の拠点
 - イ) 姫路市都心部まちづくり構想：「交流と創造のうるおいひろば」と位置づけ
- (4) 整備コンセプト
「知と文化・産業の交流拠点」
- (5) 導入機能
 - ① 幅広い世代の市民や国内外の人々が集う多様な 文化・交流活動の拠点機能
 - ② 市民の自発的な 創造・交流活動を支援する機能
 - ③ 先端技術をはじめとする学術研究や新技術などの 展示機能
 - ④ 国際的、広域的な情報交流を促進する 会議・コンベンション機能
 - ⑤ 高等教育や産業支援の拠点となる 高等教育・研究機能
- (6) 区画名称の変更及び段階的整備
 - ① 名称変更(文化・コンベンションエリアと高等教育・研究エリア)
 - ② 段階的整備

2 文化・コンベンションエリアの整備基本方針 . . . (本編 P.14)

- (1) 導入機能
イベントゾーンの導入機能のうち、文化・コンベンションエリアの導入機能は、「文化・交流活動の拠点機能」、「創造・交流活動を支援する機能」、「展示機能」、「会議・コンベンション機能」の4つ
- (2) 周辺施設との機能連携
 - ① 高等教育・研究エリアとの連携
 - ② コアゾーン等との連携
 - ③ 中心市街地活性化への貢献

3 施設の構成と規模の設定 . . . (本編 P.16)

- (1) 施設構成
 - ① 施設の機能分析
施設を「文化・交流施設」、「コンベンション・展示施設」に集約する。都心部の大規模空間に、各種施設を併設できるメリットを最大限に活かし、文化・展示・コンベンションの各施設を、それぞれの用途に十二分に活用できるよう整備しつつも、各施設の機能を用途に合わせ、有機的に連携活用することにより、エリア全体の付加価値が高まるような施設とすることが望ましい
 - ② 施設の基本特性
 - ア) 文化・交流施設
芸術文化の創造・発信拠点として、より多くの市民が芸術文化を享受できる「場」として、既存施設を継承発展させた播磨の中核拠点都市にふさわしい、文化、芸術の拠点施設
 - イ) コンベンション・展示施設
交流と観光をセットにした都市・地域成長戦略として、MICE 推進による地域の国際化、活性化を図るまちづくりに対応するとともに、播磨の中核拠点都市として、「ものづくり力の強化」、「ブランド育成強化」、「交流人口の増加」を促進する MICE の拠点施設

- ウ) 他都市の事例
政令指定都市と中核市では保有施設が異なり、中核市では施設を多用途化
- エ) 主な施設構成イメージ
文化・交流施設とコンベンション・展示施設の連携によるエリア全体の高付加価値化
- オ) 想定される利用形態
 - ・文化・交流施設は、現行施設を継承発展させた、音楽、演劇等の専用施設を想定
 - ・コンベンション・展示施設は、国際コンベンション等の大規模な会議のみを主な用途とするのではなく、「展示会、見本市」、「企業等の会議、集会」、「学会等が主催する総会、学術会議」、「コンサート、イベント」等、多目的な利用を想定

- (2) 施設規模
各施設の規模について、「施設の強み(シーズ)、必要性(ニーズ)」、「目指すべき利用」の観点から施設規模を設定

機能(施設)		望ましい施設の規模等	
文化・交流施設	文化センター	大ホール	1,600~2,000 席程度
		中ホール	800 席程度
		小ホール	100 席程度
		リハーサル室	
音楽演劇練習場	練習室 10 室程度		
	300㎡ 1 室、100~200㎡ 3 室 20~50㎡ 6 室		
コンベンション・展示施設	展示施設	3,000~5,000㎡ (5,000㎡程度が望ましい)	
	会議施設	120人(分割可)×5 室程度	

4 施設配置計画 . . . (本編 P.25)

- (1) 施設配置計画
2つの施設は別棟を基本。エリア間の機能連携に配慮
- (2) 交通動線計画
姫路駅からの安全で快適な歩行者動線の確保。駐車場へのアクセス性に配慮
- (3) 空間形成方針
イベントゾーンの玄関口としての賑わい空間や、うるおいと安らぎのある緑豊かな空間の形成
- (4) 施設整備イメージ

5 管理運営計画 . . . (本編 P.27)

- (1) 管理運営の基本方針
 - ① 姫路市における MICE の取組みを強化する事業展開
 - ② 市民の文化創造・育成、発信に寄与する事業展開
 - ③ 気軽に利用できる市民に開かれた施設運営
 - ④ 多様なニーズに対応した市民主体の施設運営
 - ⑤ 環境や安全・安心に配慮した施設の維持
 - ⑥ サービスの向上と効率化を目指した管理運営体制の構築
- (2) 文化・交流施設の管理運営手法
現在の管理運営手法をもとに、民間ノウハウの活用についても検討し、適切な手法を導入
- (3) コンベンション・展示施設の管理運営手法
本市の特性を十分活かすことを念頭に、民間ノウハウの活用についても検討し、適切な手法を導入

6 概算建設工事費 . . . (本編 P.29)

検討中

7 スケジュール . . . (本編 P.30)

平成 26 年度 基本計画策定、平成 27 年度~28 年度前半 設計、平成 28 年度後半~29 年度 工事